

敦賀発電所2号機の復水器海水系統フィルタの清掃に伴う出力抑制について

このことについて、日本原子力発電株式会社から下記のとおり連絡を受けた。

記

敦賀発電所2号機（加圧水型軽水炉；定格電気出力 116.0万 kW）は、定格熱出力一定運転中であるが、平成19年5月上旬頃より、海水の取水口に海生物（ゼラチン状の大型プランクトン；トガリサルパ）が断続的に流入してきたことから、復水器海水系統（A、Bの2系統）への海生物の流入を抑制するため、循環水ポンプ（2台）の取水量を絞り、復水器海水系統にあるフィルタの洗浄頻度を増加させるなどの措置をとってきた。

しかし、5月28日15時頃より海生物の流入量が増加し、B系統の復水器海水系統にあるフィルタ（3台）に詰まり傾向が認められたことから、当該フィルタを隔離（復水器B系統の隔離）して清掃することとし、同日22時から出力降下を開始し、翌29日3時20分に電気出力を約40%（約46万 kW）とした。

今後、約1週間程度をかけてフィルタの清掃作業を行い、作業終了後、定格熱出力一定運転に復帰する予定である。

問い合わせ先(担当：藤内)
内線2354・直通0776(20)0314

循環水系概略系統図

(図はB系復水器隔離状態を示す)

